

2017年 8月31日

## 「食」の総合大学を目指して

新潟食料農業大学  
学長 渡辺 好明

人々の健康を支え、経済の基盤である「食」と「農」について一体的に教育研究を追究する「新潟食料農業大学」につきましては、昨年10月に文部科学大臣に設置認可を申請し、大学設置・学校法人審議会による審査が行われてまいりましたが、8月29日に文部科学大臣からの設置認可がありました。これにより、2018年4月、「新潟食料農業大学」が誕生します。関係者の皆様方には改めて心から感謝申し上げます。

いま、日本の食のマーケットは、年間約76兆円ときわめて大きな経済セクターになっています。また、これからは、輸出を通じた国際競争の分野にも進出して、食の市場規模は100兆円にも成長することが見込まれます。

一方、「文化としての食」も位置づけが見直され、和食文化がユネスコの世界文化遺産に登録されたことに見られるように、次の世代に継承されるべき人類共有の財産であることが明確になりました。多様で豊富な食材、美しい景観、四季の移ろい、伝統行事との関わりなど、日本の食は地域と一体になって発展するものだといえましょう。

ところで、食と農は、食卓から農場まで、一本のチェーンで切れ目なくつながっており、そこには、生産、加工、輸送、販売、調理、サービスと多くの人々がたずさわっています。そして、生産と消費、都市と農村は、別々のものではなく対立するものでもありません。消費者が求めるものを農場が生産する、農村の現状を知って、都市が支えるといった相互の理解と融合が大切です。

新潟食料農業大学は、このフードチェーン全体をカバーする産業である食料産業を学び研究する「食料産業学部」を核として、世界のフードチェーンを牽引するフロントランナーとしての高等教育機関になることを目指していきます。

この大学では、既成観念に縛られず柔軟で自由な発想を重んじ、他者の考え方や行動を重視し、そして、あらゆることに好奇心をもちよく観察・記憶することで多様性の時代にふさわしいイノベーション能力を育てます。「自由」「多様」「創造」が、建学の精神です。

「そもそも天下に道はなく、人が歩いて道ができる」といいます。どうか、みなさん、新たに誕生する「新潟食料農業大学」で、ともに学び、ともに新時代をつくりましょう。